

指定校番号	28066	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中市立府中小学校	校長	池田 哲哉	生徒指導主事	杉 知美
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名 『和を大切に、輪を広げよう～思いやりでつながり深まる学校へ～なかよし班活動』

取組のねらい『キーワード 人間関係づくり』

- 異年齢集団による交流を促し、年齢が異なる児童同士の間人関係を築くことができるようにする。
- 異年齢集団活動を通して、高学年のリーダーシップや思いやり、問題解決力を高めるとともに、下級生からの信頼を得ることで自信をもたせる。
- 異年齢集団活動を通して、下級生の上級生に迫ろうとする努力や仲間をサポートする力を高めるとともに、上級生に対するあこがれをもたせる。

取組の具体的内容『キーワード 共感的人間関係の育成』

1年生から6年生でなかよし班（縦割り班）を作り、年間を通して一緒に遊んだり掃除を行ったりする。（各学年2人～3人ずつ、45班）

1. なかよし班朝会・・・班のプラカードを作ったり、なかよし班遊びの内容を考えたりする。

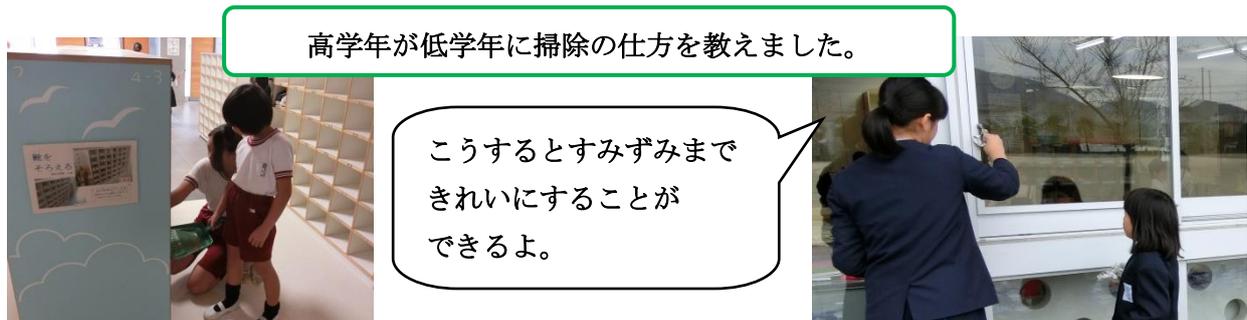


班のみんなで相談して、プラカードを作りました。

2. なかよし班遊び・・・休憩時間になかよし班で一緒に遊ぶ。



3. なかよし班掃除・・・班長を中心に役割分担を行い、掃除をする。



取組の課題・創意工夫『キーワード リーダー性の育成』

【取組の創意工夫】

- なかよし班（縦割り班）のメンバーを年間通して固定し、児童同士のかかわりが密なものになるようにする。
- リーダーである6年生の中に、上級生としての役割に不慣れな児童もいるが、教師のかかわりは必要最低限にし、リーダー性の育成を図る。

取組の成果（効果）『キーワード 自己存在感・自己有用感の高まり』

【児童の感想より】

- ・いろいろな学年の人と仲良くなれてうれしい。（1年生）
- ・他の学年の人と一緒に遊んだり掃除をしたりして、仲を深めることができた。（3年生）
- ・最初は話しかけても会話が続かなかったけれど、何度も一緒に活動していくうちに、いろいろな話ができるようになってきた。（5年生）
- ・今までは同級生とのかかわりが主だったけれど、他学年の友だちもできて、普段から交流できるようになった。（6年生）
- ・いつもは人に任せることが多かったけれど、リーダーを経験したことが自信になり、いろいろなことに自分から挑戦してみるようになった。（6年生）

【学校評価より】児童アンケートの自己肯定感に関する項目の肯定的評価

項目	5月	10月	差
自分にはよいところがありますか。	78.0%	84.9%	+6.9
自分の良さは周りの人から認められていると思いますか。	71.5%	76.9%	+5.4



- 年間を通してなかよし班のメンバーを固定したことで仲間意識が生まれ、校内で出会ったときに声を掛け合ったり、自発的に一緒に遊んだりするようになり、児童同士の密なかかわりがもてるようになった。
- リーダーとしての役割に不慣れな6年生児童がいたが、会の進行や遊び決めなど児童が中心に行えるように教師のかかわりを最小限にした。最初はうまくいかないこともあったが、何回か活動を経験するうちに、不慣れだった児童も普段見せない上級生としての姿を見せるようになり、児童の自発的な活動へとつなげることができた。

【学校評価より】児童アンケートの自己有用感に関する項目の肯定的評価

項目	5月	10月	差
みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。	85.9%	90.3%	+4.4



- なかよし班での掃除など、集団の一員としてそれぞれが役割を果たしていくことで、児童の自己有用感を高めることができた。

今後の展開『キーワード さらなる充実を』

- 【今年度】6年生ありがとうの会・・・2月に行う「6年生ありがとうの会」では、1年間活動を共にしたなかよし班でゲームを行う。それまでグループを引っ張りまとめてくれた6年生に対して、感謝の気持ちを伝えられるような機会にしていく。
- 【来年度】なかよし班活動の充実・・・継続的な取組となるように計画的に活動を進めたり、児童の自己肯定感や自己有用感を高めるために効果的な活動を取り入れたりして、より充実した取組となるように工夫していく。

他校へのアドバイス『キーワード つながり』

児童の自己肯定感や自己有用感を高めていくために、異学年交流は有効な手段であった。また、年間を通して異学年交流の取組を進めたことも、児童同士のつながりを深めていくためには、大変有効であった。